台大日本語文研究第 24 期
2012 年 12 月，頁 175-200
2012-10-19 收稿，2012-12-13 通過刊登

提升思考能力之「高級日語會話」的實踐
—以 TAE 的交錯為中心—

陳姿菁*

摘要

本研究將報告針對日語系 3 年級的「高級會話」課的實踐活動的成果。實踐活動內容是在語言學習的同時也帶入抽象思考能力的練習。語言學習的順序從具體概念開始逐漸進入認知層次較高的概念。培養抽象思考能力不但可以幫助語言學習，還可以應用在各種場面，但是相較於具體的事物而言，抽象思考能力的訓練是比較困難的。傳統的語言教育傾向將重點放在目標語言的文法或是句型練習，除了基礎練習，本研究的實踐活動在會話課程上再加入訓練抽象思考能力的練習項目。有關抽象思考的能力本研究採取 TAE 的「交錯」手法。所謂的「交錯」是指深入事物的要素，找出不同事物間相關性的能力養成方法。本次以比較台灣和日本爲題進行活動，並比較施行 TAE 有無之學習者的會話內容的變化。結果顯示，學習者的會話從具體性較高的話題轉爲抽象度較高的話題，對事物的描寫也從廣泛性的表面性比較變得比較聚焦，描述的事項也有比較多的細部描寫。

關鍵詞：TAE、交錯、會話、思考能力、抽象

* 開南大學應用日語學系/數位應用華語文學系助理教授

Enhancing the Development of Abstract Thinking in Advanced Japanese Conversation Class Using “TAE Crossing”

Chen, Tzu-ching*

Abstract

This study reports the result of a practical activity in Advanced Japanese Conversation Class. The activity consists of practicing abstract thinking ability at the same time as learning Japanese. Language acquisition starts from concrete concepts and evolves to a higher cognitive level. As well as language learning, to develop the ability of abstract thinking is very useful and can, of course, be applied in a variety of contexts. However, learning to engage in abstract thinking is much more difficult than learning concrete thinking. Although traditional language teaching tends to emphasize practicing grammar or sentence patterns of the target language, this practical activity (TAE Crossing) incorporates the practicing of enhancing the development of abstract thinking. This study used the “crossing” method from TAE (Think At the Edge). ”Crossing” is a method used to develop a higher cognitive ability which deepens different elements and integrates them with each other. This study then analyzed the results from using TAE and not using TAE in conversation where the topic is comparing Japan to Taiwan. The following effects were observed when TAE was used: (1) conversation topics changed from a concrete level to a higher abstract level, (2) the

* Assistant Professor, Kainan University, Department of Applied Japanese, joint appointment with Department of Digital Applied Chinese

conversation description changed from the surface to focusing on one particular point, and (3) the description became greater in detail.

Keywords: TAE, crossing, conversation, thinking ability, abstract

「高級日語会話」における思考力を高める試み
—TAE 交差を中心に—

陳姿菁*

要旨

本研究は日本語を専攻とする大学 3 年次の「高級日語会話」の実践を報告する。実践は語学学習と同時に抽象的な思考能力を授業に組み込んだものである。言語学習における学習順序は、具体的な概念から始まり、認知レベルの高い抽象的な概念に移っていくように組み込まれている。抽象的な思考能力を養うことは、語学学習はもとより、さまざまな場面で応用することができるので、とても有益であるが、それは具体的な物事を学ぶよりも難しいことである。従来の語学教育では目標言語の文法項目や文型練習などに重点が置かれる傾向があるが、この実践では、それらに加えて、抽象的な思考能力を高める練習も会話の授業に取り入れた。抽象的な思考能力に関して TAE の「交差」という手法を取り入れた。「交差」というのは物事の要素により深入りし、それらを互いに関連付ける高い認知能力を養う方法である。今回は台湾と日本の比較というテーマで行い、TAE の実施の有無により学習者の会話内容を比較した。その結果、話題は具体性の高い内容から抽象度の高い内容に変化し、描写も事象の表面的な比較からより焦点を絞った内容へと変わり、より細かい描写が観察された。

キーワード：TAE、交差、会話、思考力、抽象

* 開南大学応用日本語学科・デジタル応用中国語学科助理教授

「高級日語会話」における思考力を高める試み
—TAE 交差を中心に—

陳姿菁

一、はじめに

今日の台湾の日本語教育の現場を振り返ってみると、刺激と反応の連鎖による行動主義の学習理論の影響が大きく、反復と強化の教育法を重要視する傾向が見られる。しかし、人間は機械のように外部から与えられた情報をそのまま取り入れ、蓄積し、的確に状況を判断してからアウトプットできるものではない。人間は与えられた情報を頭の中にある既存知識や価値観と融合しながら、取り巻く環境や人間関係などの外部状況に応じて表象を作り上げていくのである。行動主義中心の教育法はある意味では個人差を排除し、現実の状況から切り離された練習方法とも言えよう。学習者にとって決まった文型による返答、機械的に語彙の置き換えを行う練習パターンは自立した思考力を養い難い。人とのコミュニケーションや意見表示の場面において一人一人違うはずの状況を想定することが難しく、言いたいことをうまく反映できないため、結果として、学習者が目標言語で自分の言いたいことをうまく話せないという状況に陥りやすくなる。本研究は、学習者の個人の考えを重視し、思考力を育成しながら、目標言語の既習語彙で自分の考えを表明する活動を試みたい。

二、先行研究

科学技術の発展に伴い、現代社会は知識が爆発する競争の激しい時代に入った。競争力を保つために、教育は単に知識の伝授ではなく、独立した思考力や創造力を備えることが要求されるようになった。2012 年日本文部科学省の中央教育審議会大学分科会大学教育部会の「審議まとめ」では以下のように述べている。

学士課程教育は、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛え、課題の発見や具体化からその解決へと向かう力の基礎を身につけることを目指す能動的な授業を中心とした教育が保証されるよう、質的に転換する必要がある。大学には、その転換に早急に取り組む責務がある[1]。

一方、台湾の教育基本法第二条にも以下のように明記されている。

「教育之目的以培養人民健全人格、民主素養、法治觀念、人文涵養、強健體魄及思考、判斷與創造能力」。（筆者訳：教育の目的は健全な人格、民主の教養、法治的な概念、人文教養、健康的な身体、思考力、判断力及び創造力の育成にある。）

思考力を重視する教育は時代の要請である。

ところが、教師が主導する今日の教育現場では、「詰め込み式」教育が主流に行われており、学習者の思考力や創造力が大きく制限されている（莊淇銘2009)。教科の進度、クラスごとの人数などの外在条件の影響もあり、思考力や、創造力を養う教室活動は容易ではないが、そのような活動の開発や試みは高等教育以下の教育機関や特殊教育に見られる（Marjore J.Wynn 1996；呂金燮訳1998；黄瑞換・洪碧霞1983；陳龍安1984など)。しかしながら、現実問題として、教師が新しい教案を開発しても、学習者には進学に対するプレッシャーがあるため、試験制度に対応する「詰め込み式」教育に流れ易く、受身的な教育に慣れてしまう。

このような学習スタイルに慣れている学習者は大学に進学しても、能動的に学習したり、意見表明を上手に伝えたりすることが苦手なことが多い。外国語を勉強する学習者に目標言語で意見を求めたときに、語彙や文法に縛られてうまく意見を表出できない学習者はもちろんだが、ある程度の語学力がある学習者でも、返答の内容が通り一遍になってしまう状況が多々見受けられる。

---

[1] （『予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ』（2012：1））

学習者にとって、思考力の養成はこのような状況を打破するために、必要な能力であると思われるが、では、どのようにしてそれを外国語教育に取り入れていくべきであろうか。

本研究では「辺縁思考（Think At the Edge、略称TAE）」を取り入れ、思考力を養成する試みを行った。TAE（Thinking At the Edge）はユージン・ジェンドリン（Eugene T. Gendlin）博士と夫人メアリー・ヘンドリクス（Mary Hendricks）が開発した理論構築手法である。ジェンドリン博士はアメリカ在住の哲学者及び心理臨床家である。ジェンドリン博士は、師匠であるカール・ロジャーズ博士と共同で実際のカウンセリングの成功例と失敗例の原因を考察した際に、より自分の感情をリアルに感じていて、その感じている何かを言語で表現できる人のほうがカウンセリングの成功につながりやすいと気付いた。そしてそれをきっかけに人間の身体の「感じ」に注意を向けるようになり、フォーカシングという心理手法を開発した。その「体の感じ」とはTAEの中核となる概念で、「フェルトセンス（felt sense)」といわれ、直訳すれば「体の感じ」「身体感覚」となる。しかし、これは単なる「身体感覚」や「体の感じ」という意味だけではなく、自分自身を取り巻くあらゆる状況や物事に対する「体全体の感受・感覚」といった意味合いである。たとえば、海へ漁に出るかどうか判断する漁師を考えてみればいい。素人の目に映る変哲のない海でも、経験豊かな漁師にとっては、収穫の状況をある程度推定できるものである。しかし、何を基準にそのような判断を下しているのか説明してもらっても、経験のない素人にとってはそれを理解することは難しく、やはり何の変哲もない海としか映らない。

TAE では人間の身体の「知」に着眼し、身体に注意を向ければ、その深層に自分の身体が感じているがまだ言葉になっていない「何か」が浮かび上がると説明する。そしてその「何か」を言語化していく過程を明白なステップで示しており、最終的には理論構築まで

を可能にする。TAE は計 3 つのパートで 14 のステップ[2]があり、手法が明瞭であることが特徴である。それぞれのパートは以下のとおりである。

パート 1:「フェルトセンス」を掴む（ステップ 1－5）

パート 2：抽象思考に進む（ステップ 6－9）

パート 3：理論を構築する（ステップ 10－14）

得丸(2008)が TAE を日本語教育に応用することを提唱して以来、さまざまな分野で応用されるようになってきた。当初は作文教育や読解教育から導入が始まった（陳淑娟 2010a、2010b；佐藤 2010；宇津木 2010；陳姿菁 2011a)。その後、会話授業の実践（陳姿菁 2011b、2012；徐孟鈴 2012)、文化教育における異文化理解の教育実践（許均瑞 2011）や質的分析の手法（鈴木・得丸 2008；得丸 2011；羅暁勤 2011；跡部 2012）などに広く応用されるようになっていった。

陳淑娟（2010a、2010b）でも指摘されているように、学生の内面性を重視する観点において、TAEは書いたり読んだりするだけではなく、4技能のいずれに対しても応用が可能であると考えられる。

そこで、陳姿菁（2011a）は読解授業に、TAE のパート 2 を応用して、抽象思考能力の育成の試みを行った。また、陳姿菁（2011b）と陳姿菁（2012）では、それぞれ「高級日語会話」「中級日語会話」の授業に TAE のパート 1 を導入し、学習者のフェルトセンスに基づき会話の表現力の向上の試みを行った。この一連の研究対象で使用している TAE 手法と本研究の関係は以下の通りである。

	対象	活動	使用しているTAEのパート
陳姿菁（2011a）	大学4年生	読解	パート2
陳姿菁（2011b）	大学3年生	会話	パート1

[2] 本研究ではパート 2 のステップを援用しており、その内容について 3 節のワークシートの記入の部分で詳しく説明してある。他のステップに関しては、http://www.focusing.org/index.html や得丸（2008、2010）などをご参照頂きたい。

陳姿菁（2012）	大学2年生	会話	パート1
本研究	大学3年生	会話	パート2

本研究ではTAEステップのパート2の「抽象思考に進む」の中の「交差」というステップを会話授業に取り入れ、思考力の練習とした。そして、その考えたことをワークシートの記入を通して、目標言語に言語化させ、深みのある会話を形成できるよう試みた。陳姿菁（2011a）は読解授業においてシート記入を通して理解を深める試みを行ったが、今回はそれを資料にして会話の編成を行い、TAEの「交差」の導入の有無による会話の変化を観察したい。

辞書によると「抽象」とは「事物または表象からある要素・側面・性質をぬきだして把握すること」と解釈されている。つまり「抽象思考」能力とは、物事の要素や側面、性質を抽出する思考の手法であると理解できよう。

TAE のパート 2 の「抽象思考に進む」の中で、事物の要素（「パターン」）を取り出す練習、関係付けたり（交差）する練習のステップが示されているが、これは、類似性を見いだしそれらを関連付けていく思考力の練習に適しているため、授業に応用した。

三、実践授業の概要

（一）学習者および進度

科目：高級日語会話（上）（上級日本語会話・前期必修科目）

学習者：台湾の応用日本語学科 3 年生 36 名

時間帯：週 4 時間・一学期計 18 週

授業進度：『学ぼう日本語初中級』第 1 課から第 10 課

科目名である「高級日語会話」の「高級」は学習者の能力を指しているわけではなく、学科のカリキュラムでの 3 年生の会話授業を指しているものである。大半の学習者は実践授業を受ける時点で 2 年余りの日本語学習歴を有する。

（二）実践内容

授業の計画は以下のとおりである。担当している科目に関して、学科全体が定めた教科書及び進度があるので、その進度を妨げないように、教科内容と関連付けて、TAE導入の有無によって学習者の表現の変化を観察した。また、TAEを会話授業に導入することで、学習者の会話にどのような変化があるのかを見るために、同じテーマでTAEの導入無しと導入有りの2回に分けて、それぞれ学習者の会話を採集した。1回目は教科書の内容を参考にして自由に会話を作らせた。2回目はTAEのワークシートを使い、ペアで抽象思考の練習をさせてから会話文に必要な話の材料を用意し、会話を再編成させた。今回は得丸（2008）がデザインしたTAEのワークシート（シート12）を使用した。構成は以下の通りである。

教科書第5課－「湖や海もあれば、高い山もたくさんあります」というドイツと日本を比較しながらドイツを紹介する内容である。第5課を終えた後、「台湾と日本の比較」というテーマを用い、ペアで自由に会話文を作らせた。その会話内容を中間テストとした。

1ヵ月後、TAEの「パターン」抽出と「交差」という活動を導入し、同じテーマで再テストし、その変化を考察した。

パターン（pattern）とは「多くの実例のなかに繰り返し表れる可能性があるもの（得丸2008：66）」である。私たちが普段の生活で使っている慣用句やことわざなどもその一例である。先人の体験や知恵がその言葉に凝縮されており、それはさまざまな状況に適用できる。今回は、学習者の理解を容易にするために、「パターン」とは教訓や教え」というふうに定義した。

「交差（crossing）」とは「ある実例が示唆することが、別の実例にもあるとすること（得丸2008：78）」である。ある事項に存在している現象を別のパターンに当てはめることによって意識していなかったことや、なんとなく気付いているがうまくいえていないことに気付き、掘り出す作業である。「パターン」の抽出と「交差」を通して、物事の類似性を見出し、それらを関連付けていくことは、思考

力の練習になる。

陳姿菁（2011a、2011b、2012）は、一連の読解や会話での実践において、導入する前のウオーミングアップ、その後のフィードバック、そしてシート記入の手順などの重要性を痛感したため、今回の実践では少し改善を行い TAE の交差を導入した。

TAEの導入手順は以下の通りである。

パターン及び交差：

（１）ウオーミングアップ：「ウサギと亀」「赤頭巾ちゃん」（中国語・口頭）

（２）ウオーミングアップ：「浦島太郎」「かぐや姫」（日本語・シート 12）

（３）小テスト：「台湾と日本の比較」

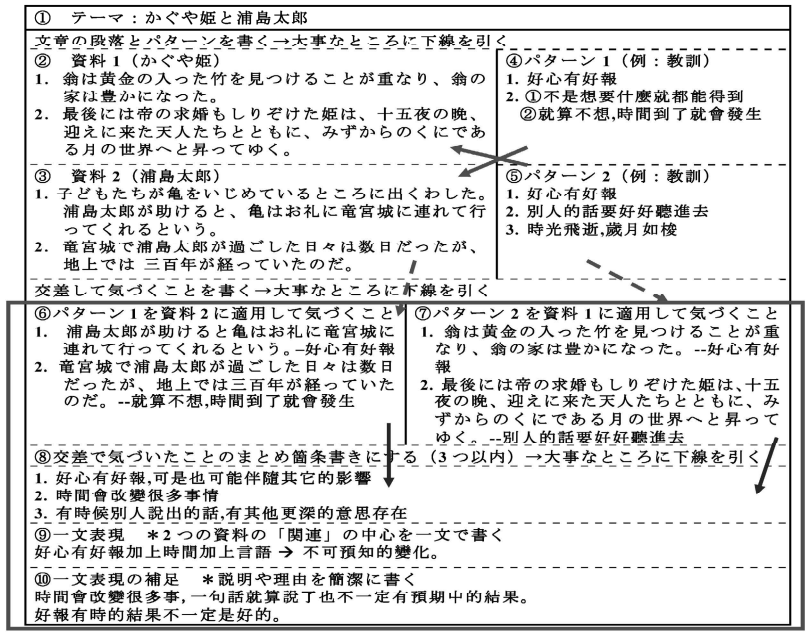
（１）ウオーミングアップ（中国語・口頭による交差練習）

学習者に「パターン」と「交差」を認識してもらうために、導入の最初に中国語によるウオーミングアップ練習を行った。

まず、「ウサギと亀」と「赤頭巾ちゃん」の中国語の内容をPPTで示した。それぞれの「パターン」をグループで出し合ってもらったあと、交差させた。例えば、「ウサギと亀」の内容から「安易に人を信じるな」という「パターン」が得られ、それを「赤頭巾ちゃん」にあてはめることができるかどうかを探す作業である。そこで「狼を安易に信じてはいけない」という結果が得られたとすれば、これは交差である。

（２）ウオーミングアップ（日本語・シート記入による交差練習）

（１）のように 2 つの童話を使い、クラス全員に交差という概念を練習させた後、「浦島太郎」と「かぐや姫」の内容を日本語で提示し、ワークシート（得丸 2008 のシート 12 から簡略したもの）の記入練習を行った。以下はその例である。



②は資料1である「かぐや姫」の気になる場面

③は資料2である「浦島太郎」の気になる場面

④は②の場面から抽出した「パターン」：ここでは「1．なさけは人のためならず（好心有好報）」「2．①願うことは全て手に入るとは限らない（不是想要什麼都能得到）②いやでも時間になったら自ずと起きる（就算不想時間到了就會發生）」の3つが抽出された。

⑤は③の場面から抽出した「パターン」：ここでは「1．なさけは人のためならず（好心有好報）」「2．人の話はよく聞け（別人的話要好好聽進去）」「3．光陰矢の如し（時光飛逝，歳月如梭）」の3つが得られた。

⑥は④で得たパターンと資料2との類似性を記入する。例えば、「なさけは人のためならず（好心有好報）」というパターンを「浦島太郎」にあててみると、「浦島太郎が助けると亀はお礼に竜宮城に連れて行ってくれるという」場面にあてはまる。また「いやでも時間になったら自ずと起きる（就算不想時間到了就會發生）」

というパターンをあててみると、「竜宮城で浦島太郎が過ごした日々は数日だったが、地上では三百年が経っていたのだ」という場面にあてはまる。

⑦は⑥と同じやり方で、今度は⑤のパターンが資料1で当てはまる場面を記入する。

⑧は⑥と⑦の作業を通して得られた新しい気付きを記入する。この学習者は「1．なさけは人のためならずとはいうが、ほかの結果や影響も伴う可能性がある（好心有好報，但是也有可能伴隨其它的影響）2．時間はいろいろなことを変える（時間會改變很多事情）3．人の話はもっと深い意味があるかもしれない（有時候別人説出的話，有其他更深的一絲存在）という3点をまとめた。

⑨はここまで2つの資料の「関連」を探るプロセスから得たものを一文でまとめる作業である。この一文は自分へのヒント提示のようなもので、他人が理解できる文でなくても構わない。ここでは「なさけは人のためならずプラス時間プラス言語→予測不可能の変化（好心有好報加上時間加上言語→不可預知的變化）という一文でまとめられた。

⑩は⑨の不完全な文への情報補足であり、つまり、他人にも理解できる文として記す部分である。ここでは「時間はいろいろなものを変える。言葉通りの結果になるとは限らない。なさけは人のためならずとは限らない（時間會改變很多事，一句話就算説了也不一定有預期中的結果。好報有時的結果不一定是好的）」と記された。

（３）小テスト

（２）の練習が終わったあと、その結果をPPTで提示し、シートの記入の復習をかねて、思考の変化を見せた。それから、中間テストで各ペアが作成した会話文を全員に配り、ヒントが得られる会話文を1つ選び出し、自分の中間テストの内容と交差させ、シートの記入をさせた。そして、シートの⑥－⑩の部分を会話の材料として、「台湾と日本の比較」という同じテーマで会話文を再編成し、小テ

ストを行った。

全体の流れをまとめてみると、以下の通りである。

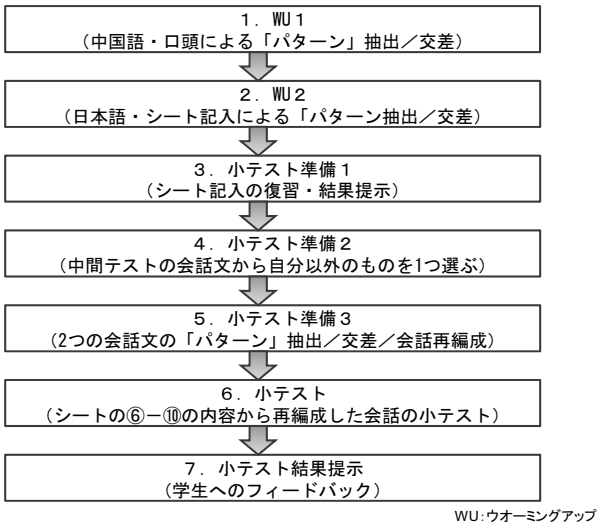


図１　TAE 導入の手順

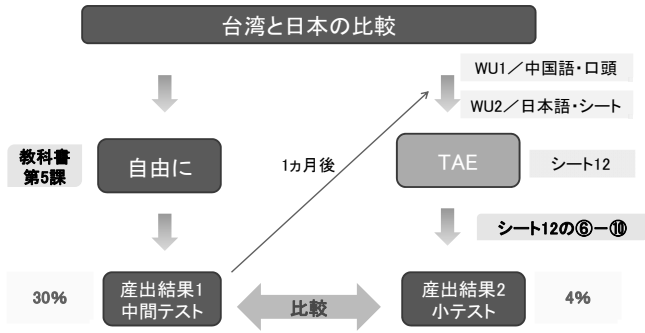


図2　実践の手順

四、結果

中間テストと同じペアでパターンシート12を使い、中間テストと同じテーマ「台湾と日本の比較」という会話文を再編成させた。以下は＜ペア1＞が記入したシートとTAE導入前（中間テスト）とTAE

導入後（小テスト）の内容である。

まず、例 1 は＜ペア 1＞の TAE 導入前に自由に作成した会話文である。下線部の会話から分かるように、気候の比較から始まり、象徴的な日本のお城や神社が話題として取り入れられている。

例 1　＜ペア1　TAE導入前＞

1A：B さん、お久し振りですね。先月、日本へ行きましたよね。

2B：うん、行きましたよ。

3A：へえ～いいですね、楽しかったか？

4B：はい、すごく楽しかった。日本は本当にいい所ですね。

5A：そう言えば、何故日本に決めた？

6B：それはね…私の彼女がどうしても日本へ行きたいって言ったものだから、彼女をつれって行きました。

7A：そうですか、日本と台湾に比べてどこが違う？

8B：ぜんぜん違いますよ、日本の冬は雪が降りますから台湾より寒いと思いました。

9A：うん、そうですね。私はまた雪が見たことがない。

10B：私も初めて見ました、寒いですけど綺麗だった。そう言えば、台湾にはお城がないですね、でも私、京都でお城が見ましたよ、立派だな。

11A：そうですね、日本ではお城もあれば神社もありますね、一回でも見てみたいですね。

12B：ガイドのおかげて、色々有名な観光地と名物を見ました。

13A：本当に羨ましいな。

（添削無し）

その後、上記のような中間テストで作成した自由会話文をクラス全員に配り、自分と他人の会話文の交差結果（⑥－⑩）を手がかりとして、再度会話文を編成させた。次は＜ペア 1＞が記入したシートの結果である。

＜ペア1＞

表1（得丸2008シート12）

<table>
<tr><td colspan="2">①興味をもった資料（新聞記事）の中で「関連」がありそうなものを2つ選び、「関連」をよく感じる</td></tr>
<tr><td colspan="2">＊資料を要約し、パターンを見つける→大事なところに下線を引く</td></tr>
<tr><td>②資料１（自分の）
Bは彼女と一緒に日本へ行った。台湾のない景色を見た。
そのことをAさんに教えた。</td><td>④パターン１
自分の意向じゃなく行動も意外な発見もあるかもしれない</td></tr>
<tr><td>③資料２（他人の）（HさんとTさんの会話）
Tさんはおばあさんのおかげで日本へ行った。
そのことをWさんに教えた</td><td>⑤パターン２
人の話を聞いて自分の目標をたてるかもしれない</td></tr>
<tr><td colspan="2">＊交差して気づくことを書く→大事なところに下線を引く</td></tr>
<tr><td>⑥パターン１を資料２に適用して気づくこと
おばあさんのおかげで日本へ行った。
そちらに台湾に見えない自動販売機を見た</td><td>⑦パターン２を資料１に適用して気づくこと
AさんはBの話を聞いて自分も日本にあるお城や神社みたくなった</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑧交差で気づいたことのまとめ箇条書きにする（3つ以内）→大事なところに下線を引く
試したら、新発見がある
沢山自分で知らないこと、いつも自分で見える所がある</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑨一文表現　＊2つの資料の「関連」の中心を一文で書く
放開心胸，勇於嘗試
心を広げ、どんどんチャレンジする</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑩一文表現の補足　＊説明や理由を簡潔に書く
上述的兩篇資料中，都是因爲有了初步嘗試才有新的視野
上記の2つの資料は全て第一歩のチャレンジがあるからこそ新しい視野が得られたのである</td></tr>
</table>

（添削無し、イタリックは筆者による訳）

上記のシートの⑧、⑨の記述から、勇気を振り絞って一歩踏み出せば、今まで気付いていなかったことに気付き、普段から身の回りにあるものに対しても新しい発見があるという結論になった。そしてそのような所感から、話者Bがもう一度自分の日本の旅を顧みて、以下のような会話文が産出された。

例 2　＜ペア 1　TAE 導入後＞

1A：B さん、日本の旅はどうでしたか。

2B：日本の友達がガイドを担当したおかげて色々な所へ行った。そこで、台湾のないものを見ました。

3A：えっ、それは何ですか。

4B：バスを乗る時、皆は静かにしていて、降りる時バスを止まるのを待ちる。そして、バスが停まった時、運転さんはエンジンを消す。

5A：ええ…何故こんなことをしましたか。

6B：CO2 を減らすためにっだと思って。

7A：ああ、たしかに。台湾ではその現象がないですね。バスを乗る時、皆は騒いでいて、全然秩序がないなあ。日本人はやっぱりそんなことに礼儀正しですね。

8B：その後、一緒に神社やお城を見に行った。

9A：いいですね、そんな場所は台湾でないので、全然見えない。私は一回ぐらい行ってみたいだなあ。そのために、今から日本語の勉強はもっと頑張る。

10B：そうだけど、旅行もいい勉強になるかもしれないね。

（添削無し）

例2ではシート⑧の「沢山自分で知らないのこと、いつも自分で見える所がある（普段気付いていない身の回りに新しい発見がある)」から、日本旅行で気付いた日本人の環境保護への振る舞いを思い出すきっかけとなり、話題の材料として取り入れられた。

例1と例2の下線部の発話を比較してみれば分かるように、例1の会話は「気候・お城・神社」というありふれた話題から、例2の「環境保護、礼儀・神社／お城」という内容に変容した。また、エコ運転という環境保護への気配りについての描写が例1の話題の触れ方に比べて、より詳細である。

続いて、＜ペア2＞のTAE導入前後の会話を見てみよう。

例3　＜ペア2　TAE導入前＞

1A：台湾と日本の違うところは？

2B：言語と気候に異なっていると思います。

3A：どう思いますか。

4B：気候について、日本は台湾に比べて乾燥しています。日本では冬になると雪が積もります

5A：そうですね。私は台湾に雪を見たことがないですけど。

6B：どの方面が違うことを思いますか。

7A：飲食の文化の上で日本に比べて台湾は美味しくて安い食べ物がたくさんあります。

8B：わかっだ。また日本のお寺と台湾のお寺はいろいろ違いがあっ

て面白いですよ。

9A：何にが面白いですか。

10B：一番面白いかったのは「お参りの仕方」が全然違うことですね。

11A：そうですか。私は日本の神社が好きです。建物が雅＜みやび＞やかだと思います。

12B：また最大の異なっているから、台湾の人はとても熱心がありますよ。

13A：そうですね。私は台湾人が大好きです。

（添削無し）

例 4　＜ペア 2　TAE 導入後＞

1A：台湾と日本の違うところは？

2B：例えば、日本のお寺と台湾のお寺はいろいろ違いがあって面白いですよ。

3A：本当に、お参りの仕方は何が違いますか。

4B：日本では、一つの神様の前で賽銭を入れてから、2 礼 2 拍 1 礼をして、目をつぶって、心の中でお願い事をします。

5A：でも、台湾のお寺ではいろいろな種類の神様の前を順番に回って、一本ずつ長いお線香をあげます。

6B：そうですね。まだ、日本人は時間を守れるから礼儀を重視します。例えばバスはあまり遅刻しないからお客に敬語で使います。

7A：それから、台湾は全然違かいませんね。台湾のサ-ビスは熱心ですから日本のサービスは礼儀正しいです。

8B：国と文化と違いますで、やっぱり考え方も違いますね。

（添削無し）

例 3 の台湾と日本の比較（下線部）では、「気候、食べ物、お寺／お城、お参り、民族性」についてのもので、汎論的な内容が多い。一方、TAE 導入後では、その内容は「お寺／お城、お参り、サービス、礼儀」というふうに変化した。特に、台湾と日本の「お参り」

の仕方について詳細に述べており、例 3 とは変わって、一つの焦点に絞り深く触れるような描写スタイルに変わった。

次の例 5 と例 6 では、自由会話の内容の完成度が既に他のグループより高いのだが、TAE の導入により、どのような変化をもたらすのかを見てみよう。

例5 ＜ペア3 TAE導入前＞

1A：台湾は日本と比べて違うところがある？

2B：沢山あると思いますけど、一番驚いたのは日本人は冷たいよ。

3A：ええ？そんなの？

4B：日本に行ったばかりの時に道を迷っちゃって、日本人と聞いたところに「警察に聞いてください」って返事いくれました。

5A：えぇ～そんな事もあるか、ずっと日本人は優しいと思ってたのに…ああ、ところで、この前に言ったライブの事を覚えていますか。

6B：うん、覚えていますけど…どうしたんの？

7A：開演は 30 分遅刻したよ。日本ならこんな事はありえないでしょ。日本人は時間を守れるから。

8B：そういえば　バスなどもあまり遅刻しませんね。それに、上司に会うなら 15 分くらい早く行って待ってなきゃ。

9A：って、日本にライブを見たことがない？

10B：見ていったよ。それも違うところがあるね。ライブが終わっても会場が綺麗ですよ。皆は周りのゴミを拾って帰りますね。

11A：台湾ならちょっと…ね～～

12B：ね～～

13A：留学が楽しそうね。

14B：楽しいよ。いい勉強になった。

15A：いいな～行きたいわ。

16B：行けば～

17A：へえ？

18B：いいや、学校で留学の機会があるでしょ。

19A：うん…でも、申し込むは難しいと思う…

20B：留学と決めた以上は一生懸命頑張らなきゃ。

21A：そうね。じゃ、頑張ってみろうか。

（添削無し）

例 6　＜ペア 3　TAE 導入後＞

1A：台湾は日本と比べて違いがある？

2B：たくさんあると思うけど、最も違うところは日本人は冷たいよ。

3A：ええ、そうなの？ずっと日本人は優しいと思ってたのに・・・。ところで日本の夜生活がどうだったの？店の閉める時間は台湾より早いし、夜市もないし、つまらないでしょう？

4B：いやいや、それは大間違える！夜もちゃんと遊べるよ！夜遅くまで開いてるの居酒屋があるって食べたり飲んだり話したりできるよ。

5A：あっ！そういえば、この前先生から教えてくれたんだ、夜遅い時間の電車は酒臭い、飲兵衛日本と言われたらしいね。

6B：そうよ！日本人は結構お酒が好きだ！でも、台湾人も同じだよね。あとは、クラブとかキャバクラとかホストクラブなどもあるから、日本の夜生活はとてもカラフルなんだよ。

7A：ええ～思うと違いじゃん。

8B：でしょう、あの店らによく行くの人が結構いるって。

9A：へえ～日本人は普段、抑えてすぎるので夜で結構遊んでいるってことかな？

10B：かもしれないね。

11A：だから日本の夜生活はだいたい台湾と同じだね。もしかして、日本人の夜生活は台湾より色んなあるかもね。

12B：違いが言うなら、台湾に夜食を食べるのは便利だってこと。夜市があるし、24 時間のコンビ二と店もあるし。

13A：うん、そうね！てか、台湾にキャバクラみたいところがあるって聞いたんけど、ホストクラブとかがないかな？

14B：それは分からない。なんだ？行きたいってこと？

15A：うん、ちょっと気になってるから。

16B：じゃあ～一緒に日本へ行くなら、ホストクラブに行ってみようか？

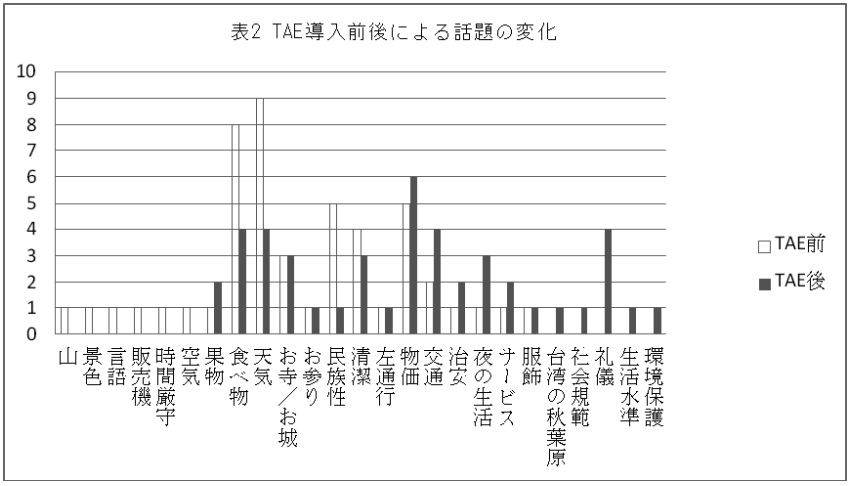
17A：うんー！いってみよう！

（添削無し）

例 5 と例 6 の下線部から分かるように、話題について「民族性、時間厳守、清潔」から「民族性、夜の生活」への変化が見られた。そして、TAE 導入前の述べ方は各話題について均等に例を挙げながら説明するのに対し、TAE 導入後は「夜の生活」に焦点をあて、深く細かく描写するスタイルに変容した。

五、考察

まず、TAE 導入前後の話題変化を見てみよう。表で分かるように、TAE 導入前は具体性のある話題が多く取り入れられ、特に食べ物や天気などに触れた話題が一番多かった。それに対して、TAE 導入後では具体性のある話題から抽象度の高い話題に変わったことが観察できた。



TAEの導入前後の会話の変化を見ると、TAEを導入した後の会話内容は事象の表面的な比較からより焦点を絞った深いものへという質の変化が見られ，細部の描写の具体性も向上している。小テストを受けなかったり、テストのテーマから外れたりするペアを除き、小テストを受けたペアの64%に変化が見られた。残りのペアは学期の成績にあまり影響のない小テストのためか、中間テストとほぼ同様なものを使った内容であった。

同じものを 2 回やれば上達するという懸念があったため、時間と形式の面で工夫をした。同じ内容を想起させないために、1 回目と 2 回目は 1 ヶ月以上の時間を置き、そして、1 回目は全体の成績の 30% に占める中間テストとし、2 回目は全体の成績の 4% ぐらいを占める小テストにした。

陳姿菁（2011a、2011b、2012）の一連の読解や会話での実践では、導入する前のウオーミングアップ、その後のフィードバック、更にシート記入の手順などの重要性を痛感したため、今回の実践では少し改善しながらTAEの交差を導入した。

まず、ウオーミングアップに関して、時間をかけて行った。一回目は中国語で行い、学習者が出したパターンに対して丁寧に理由を聞いたうえで、他の学習者の共鳴を求めた。これらを一通り行った後に、次は日本語を導入した。

次ぎに、今までの TAE 活動では、一人で 1 枚のワークシートを記入した後、ペアになって各々が記入した 2 枚のシートの内容を会話材料とする活動を進めていたが、シートの記入時や、2 枚のシートの内容を 1 つの会話にする際に挫折を感じたとの声が多くあった。そのため、今回はペアワークで 1 枚のワークシートを記入、つまり 2 人の共同作業として行うように進行方法を変えた。結果として、個人で記入するよりスムーズに進められることが観察できた。

このクラスの学習者の大半は中級の会話授業で筆者のTAEを取り入れた活動を経験したことがある。中級で実施したときには、TAEの手順が少々複雑なこともあって、なぜTAEをやらなければならな

いのかという疑問が多く上がっていた。なぜ授業にTAEを取り入れる必要があるのかという学習者の疑問に答えるため、教師によるフィードバックに関して工夫を加えた。まず、今回の実施において、ウォーミングアップを中国語と日本語の両方で実施した後に、ウォーミングアップのシート記入の結果を学習者に提示しながら、思考の変化を実例として見せた。次に、小テストの後も、学習者が産出した会話文の例におけるTAE導入前とTAE導入後の変化を全員に提示し、比較してもらった。学習者はこのような提示に関して非常に受け入れており、なぜTAEをやるのかという最初の疑問にも答えを見つけたような表情が観察された。

つまり、（１）TAEを導入する前に、それを行う目的を説明する。（２）時間をかけてウオーミングアップを行う。（３）ペアで一つのシートを記入させる。（４）活動前後の変化についてフィードバックを行うなどの工夫を行うことで、TAEに対する学習者の理解を深めると同時に、フィードバックを行うことによって、学習者自身に、その変化を自覚させることが重要であることが分かった。

TAE の活動を通して、物事の類似性を探り、それを関連付けることによって、より深みのある会話文の作成を経験させた。一部のペアではうまく結果が出なかったが、実例の提示というフィードバックを通して、うまくできなかった学習者にも「抽象思考」とはどういうことなのかを考えるきっかけになればと思っている。抽象思考力を養成する手段として、TAE は唯一の選択肢ではないが、従来の文法重視、語彙量重視、正確さ重視という枠から開放され、個人個人の考えを大事にし、内容を重視したコミュニケーションを体験する教室活動としては、TAE は最も適した手法の一つである。本活動は、外国語教育においては、文型や語彙ばかりではなく、抽象的な思考力を育成することの重要性を示す試みでもあった。第二言語学習者にとって、定型パターンによる単調なコミュニケーションから一歩踏み出すためには、自分の頭の中にある既有知識と照らし合わせ、「考えて、伝える」という経験はとても重要である。なぜならば、

そのような経験を通して、語学力が不十分であっても意思疎通できたという達成感を得ることができれば、学習意欲の持続にも役立つはずだからである。

六、今後の課題

本研究は語学学習と同時に抽象的な思考能力を授業に組み込むことを試みた。抽象的な思考能力に関してはTAEの交差という手法を取り入れた。「台湾と日本の比較」というテーマで行い、TAEの実施の有無による学習者の会話内容を比較した。その結果、話題は具体的なものから抽象度の高いものへと変わり、TAE導入後の会話文は導入前の汎論的な描写から、焦点を絞った深い内容へという質の変化が見られ，細部の描写の具体性も観察された。思考力の重要さは言うまでもないが、対象学習者の語学力が不十分であっても第二外国語教育の一環としてTAEを取り入れることの有効性が示されたと思う。

紙幅の関係で、学習者からのフィードバックについての分析はできなかったが、今回の結果とあわせ、学習者のフィードバックを分析し、抽象的な思考力の練習を取り入れた活動の可能性について検討したい。

参考文献

跡部千絵美（2012）「台湾人学生が求める理想の日本語教師像―TAEを用いたインタビュー分析」『台湾日語教育学報』、台湾日本語教育学会、pp.86-113

陳淑娟（2010a）「TAE 理論に基づく上級日本語の授業の展開：フェルトセンスで新聞記事からパターンを取り出す実践」『2010 世界日本語教育大会論文集：予稿集』

陳淑娟（2010b）「TAE 理論に基づく日本語教育の実践の可能性」2010 年言語・外国語教育研究シンポジウムースキルとしての外国語・教育、輔仁大学、2010 年 11 月 20 日、pp.1-12

陳姿菁（2011a）「TAE 理論の日本語読解授業への応用―抽象思考の練習を中心に―」『日本語日本文学』36、輔仁大学、pp.161-181
陳姿菁（2011b）「表現力の向上を目指す会話授業の試み―「高級日語会話」を例に」『台湾日本語文学報』30、pp.441-464
陳姿菁（2012）「複雑な気持ちを言語化する会話授業の実践―「恋人に振られた」気持ちを例に―」『台湾日本語文学報』31、pp.273-294
許均瑞（2011）「台日社会現象を読み解くための文化教育試案―普遍性と共通性に気づかせる TAE ステップの応用―」『淡江日本論叢』24、pp.195-219
徐孟鈴（2012）「個人体験と内容の豊かさを重視した口頭発表の指導法―TAE ワークによる会話教育の実践例―」『台湾日語教育学報』19、pp.244-272
羅暁勤（2011）「台湾人日本語学習者からみたピア・レスポンスの可能性―TAE ステップ式質的手法を用いて」『台湾日本語文学報』30、pp.393-418
佐藤貴仁（2010）「TAE 理論に基づく文章表現指導―身体感覚の言語化―」『2010 世界日本語教育大会論文集：予稿集』
鈴木（清水）寿子・得丸智子（2008）「作文添削活動の実践研究における添削者の学び―TAE を用いた内省の分析―」『言語文化と日本語教育』36、日本言語文化研究会、お茶の水女子大学、pp.11-20
得丸智子（2008）『TAE による文章表現ワークブック』図書文化社
得丸智子（2010）『ステップ式質的研究法―TAE の理論と応用』海鳴社
得丸智子（2011）「『感性』を扱う質的研究」『感性工学』Vol.10 No.2、pp.99-102
宇津木奈美子（2010）「『フェルトセンス』の導入―来日した短期留学生の実践から―」『2010 世界日本語教育大会論文集：予稿集』
陳龍安（1984）《創造思考教學對國小資優班與普通班學生創造思考能力之影響》台北市立師範專科學校
莊淇銘（2009）《知識不是力量――培養思考力》台北：晨星

黃瑞換、洪碧霞（1983）《資賦優異兒童與創造能力的教學》復文圖書出版社

Eugene T. Gendlin(1981) *Focusing*, Bantam books.

Marjorie J.Wynn(1996) *Creative Teaching Strategies: A resource book for K-8*, Wadsworth Publishing. 呂金燮譯（1998）《創意教學策略》紅葉文化

WEB資料

http://www.focusing.org/index.html

http://www.focusing.org/jp/tae-intro_jp.html

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301a.htm

http://host.cc.ntu.edu.tw/sec/all_law/1/1-46.html

付記

本研究は、2012 年 8 月 19 日、名古屋大学で開催された「2012 年日本語教育国際研究大会（ICJLE）」のパネルセッションで口頭発表した内容を大幅に加筆し、訂正を行ったものである。